会　報

No.60（1998年5月）

目　次

◆1997年度会計収支決算報告 ……… 1

◆1997年度会計監査報告 ……… 1

◆第21回（1998年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その2） ……… 2

◆学会費（年度会費）納入についてのお願い ……… 23

◆入会申込みの手順について ……… 23

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について ……… 24

◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ ……… 25

○第1回国際シンポジウム
「Disease Prevention by IP_6 and Other Rice Components」

○第4回日本生化学会春季シンポジウム

○第5回日本生化学会春季シンポジウム

○千里ライフサイエンスシンポジウム

○第9回電顕サマースクール1998

○第4回国際神経内分泌学会議

○第2回国際幹細胞シンポジウム

○第8回アンチセンスシンポジウム

○理化学研究所脳科学総合研究センター　チームリーダー・テクニカルスタッフ公募のお知らせ

◆GENES TO CELLS 購読手続きについて ……… 31

日本分子生物学会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆1997年度会計収支決算報告

1997年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

（第10期　会計幹事　花岡文雄）

1997年度日本分子生物学会収支決算書（1997年４月１日〜1998年３月31日）

収入の部

科目	予算額	決算額	摘要
学会費	30,840,000	34,611,950	正会員 25,764,000
賛助会費	1,380,000	1,170,000	学生会員 6,937,000
預金利子	300,000	77,097	海外会員 639,950
雑収入	50,000	85,664	入会金 1,271,000
収入小計	32,570,000	35,944,711	
前年度繰越金	7,347,561	7,347,561	
合計	39,917,561	43,292,272	

支出の部

科目	予算額	決算額	摘要
事業費	12,200,000	11,817,273	
会報発行	3,000,000	2,593,631	
年会補助金	2,000,000	2,000,000	
年会プログラム	2,000,000	2,100,000	第20回年会
年会特別講演謝金	200,000	0	
国際誌発行支援金	4,000,000	4,000,000	
その他	1,000,000	1,123,642	講習会補助金他
評議委員会費	1,000,000	1,257,332	
委員会費	1,000,000	1,257,332	
選挙・名簿作成費	0	0	
業務委託費	8,500,000	9,687,095	
一般事務費	8,510,000	8,415,339	
用品費	10,000	19,000	
印刷費	300,000	166,638	
通信費	7,400,000	7,299,045	プログラム，会報等郵送料
庶務事務費	650,000	650,000	
雑費	150,000	280,656	
予備費	1,000,000	0	
支出小計	31,210,000	31,177,039	
次年度繰越金	8,707,561	12,115,233	
合計	39,917,561	43,292,272	

◆1997年度会計監査報告

1998年４月24日、会計帳簿、銀行残高証明書、領収書、日本学会事務センター出納記録などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第10期会計監査

大久保　公　策　㊞

池　田　日出男　㊞

◆第21回（1998年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その２）

第21回年会は、12月16日（水）から19日（土）の４日間、パシフィコ横浜で開催されます。年会スケジュールのあらましは、下記の通りです。

一般演題

会報 No. 59でお知らせしましたように、一般演題は、全てポスターで行います。後記の「発表申込方法」の要領に従い、お申込み下さい。

一般演題（ポスター）発表は、初日から４日目までの４日間で、約2,800題を予定しています。ポスターのスペースは、高さ150 cm×幅150 cm を予定しています。

設　　営	8：00～ 9：00
展　　示	9：00～18：00（第４日目は 9：00～17：00）
説明・討論	9：30～10：45（奇数番号）、10：45～12：00（偶数番号）
撤　　去	18：00～18：45（第４日目は17：00～17：30）

ワークショップでの口頭発表に選ばれた一般演題の方も、ポスター発表をしていただきます。

ワークショップ

ワークショップは、初日から３日目までの16：00～18：30に、30テーマ約150題を予定しています。

各ワークショップの世話人が一般演題（ポスター）発表の中から数題選考し、口頭発表をお願いする予定です。１演題当りの発表時間は、世話人に任せてあります。また、同時に10会場で行う予定です。発表はスライドで行います（OHP ご希望の方は、事前に世話人にお知らせ下さい）。

シンポジウム

準備委員会で別表のような12題のシンポジウムを企画しました。シンポジウムは同時に３会場で、初日から４日目までの12：30～15：00に行う予定です。

バイオテクノロジーセミナー

初日から４日目までの９：30～11：30に行う予定です。詳細はプログラム（11月上旬発行予定）と講演要旨集（11月下旬発行予定）をご覧下さい。

市民公開講演会

年会期間中の夕方に行う予定です。詳細はプログラムと講演要旨集をご覧下さい。

発表申込方法

1. 代表発表者として応募できるのは、本年度会費既納の本学会員に限られます。さらに、いずれの発表形式であれ、代表発表者になれる発表は一人一題とします。ただし、他の発表の連名者になることは差し支えありません。
2. 発表申込締切日　　1998年８月21日（金）必着
3. 発表申込書送付先　　〒565-0082 豊中市新千里東町 1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル14階
学会センター関西内
第21回日本分子生物学会年会　係
TEL（06）873-2301、FAX（06）873-2300
4. 発表申込は、発表申込書、講演要旨用紙、演題申込受取書、発表演題採否通知書に必要事項を記入

・印字し、講演要旨用紙のコピー５部（Ｂ５判）を添えて、簡易書留便で前記の年会係までお送り下さい。

5. 発表申込書記入方法

1) ＊印の項には記入しないで下さい。

2) 発表申込書の連絡先欄には、代表者１名の氏名、住所、TEL、FAXを記入して下さい。

3) 人名索引編集用カードには、演者および連名の方の全てについて１枠に１名ずつ記入して下さい。外国人の方は、できるだけカタカナでの表記は避けて下さい。

4) 代表発表者の本年度会費納入を確認するために、発表申込書の指定の欄に、会費払込みの際に郵便局等が発行する領収書のコピーを貼付して下さい。なお、入会手続中の方や、領収書を紛失された方は同欄にその旨を記入して下さい。また、入会申込みをされた方には、入会申込書（兼 会員カード）を提出された後に、㈶日本学会事務センター（東京）より会費の請求書が送付されますのでご注意下さい。会費未納の場合には発表申込を受理できませんので、ご注意下さい。

6. 講演要旨用紙記入方法

1) ＊印の項には記入しないで下さい。

2) 希望するワークショップの番号を記入して下さい。

3) ワークショップを希望されない場合は、「ワークショップを希望しません」に◯印を付けて下さい。

4) さらに「ポスター発表分類表」より演題に最も関連の深い分類を二つ選び、希望順に記入して下さい（1—b、3—a）。

5) また、同一グループが一連の発表をし、関連演題に順序をつけたい場合は、その旨を関連演題順序欄に明確に記入して下さい。

6) 講演要旨はオフセット印刷しますので、ワードプロセッサー（ただし、できるだけレーザープリンターをご使用下さい）またはタイプライターで直接印字するか、または印刷したものを丁寧に糊付して下さい。

7) 代表発表者の前の左肩には◯印をつけて下さい。

8) 所属は略称を用いて下さい（外国の所属には国名を明記して下さい）。

9) 昨年同様、演題、発表者氏名、所属を日本語と英語で並記して下さい。

10) 講演要旨は、日本語、英語のどちらでも結構です。なお、縮小率は約58％ですので図や表にご注意下さい。

11) 講演要旨用紙の鮮明なコピー５部（Ｂ５判）を添付して下さい。

7. 演題申込受取書・発表演題採否通知書記入方法

1) 演題申込受取書と発表演題採否通知書の葉書には演題名を記入し、裏面には宛名を記入して、50円切手を貼って下さい。切手がない場合には返送しません。

2) 演題申込受取書は、申込書到着後に代表者の本年度会費納入を確認したうえで、返送されます。発表申込の採否は、ポスター発表は準備委員会が、ワークショップはワークショップの世話人が決定します。個々の発表日時と会場については、プログラムでお知らせします。

参加申込および参加費

1. 年会参加費は前納（締切11月６日）の場合は正会員7,000円、学生会員5,000円、非会員10,000円です。11月9日以降の送金から当日の受付までは、正会員10,000円、学生会員7,000円、非会員11,000円となりますのでご注意下さい。

年会参加費には、講演要旨集１部の代金が含まれています。なお、講演要旨集のみご希望の方には、会員3,000円（ただし、会員１人につき１部のみ）、非会員5,000円でお頒けします。

今回は、講演要旨集は印刷物として発行し、CD-ROMは作成いたしません。

2. 懇親会の代わりに、ミキサーを行います。最終日を除き、3時からビール等を用意しますので、ご利用下さい。
3. 年会参加費、講演要旨集代金の払込みには、同封の振替用紙をご使用下さい。同封の振替用紙を使用されない場合には必ず通信欄に、第21回日本分子生物学会年会と記入し、送金の内訳、住所、氏名をご記入のうえ、下記の郵便振替口座へご送金下さい。

〈送金口座〉

口座番号　00900-0-125391

加入者名　第21回日本分子生物学会年会

（学会費の振替用紙とは口座が異なりますのでご注意下さい）

なお、経費節減のために、参加章と講演要旨集のそれぞれをできるだけまとめて発送したいと存じます。周囲に複数の申込者がいる場合は、年会参加費の納入に際してできるだけ以下のようなご協力をお願いします。

1) 参加章と講演要旨集を一括して発送できるグループ（例えば研究室単位等）を作り、連絡責任者を決めて下さい。連絡責任者は、年会参加費等を集め一括して振替用紙で送金して下さい。
2) 連絡責任者は、送金と同時に、別途、連絡責任者の住所（TEL、FAX も記入）と送金の明細（各送金者の氏名（フリガナ）、所属、内訳）を明記して、下記の年会事務局宛に文書でお送り下さい（特に様式はありません）。

〒565-0082 豊中市新千里東町 1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル14階

学会センター関西内

第21回日本分子生物学会年会　係

4. 11月6日までに年会参加費を振込まれた方には、年会前（11月下旬）に連絡責任者に参加章と講演要旨集（グループ発送）を送付します。11月9日以降に振込まれた場合には、年会会場にて参加章と講演要旨集をお渡しすることになりますのでご注意下さい。
5. 年会参加費等払込みの領収書は、原則として発行しませんのでご了承下さい。念のため、郵便局が発行する領収書は、参加章や講演要旨集の到着まで保管しておいて下さい。

年会期間中の宿泊、JR 券、航空券等のご案内

会報に綴込んだ「割引航空券・宿泊等のご案内」をご利用下さい。お申込み・問合せは下記に直接ご連絡下さい。

株式会社 三慶

〒171-0022 東京都豊島区南池袋 1-13-21

TEL（03）3987-2631、FAX（03）3987-4659

第21回年会に関する問合先

学会センター関西内

第21回日本分子生物学会年会　係

TEL（06）873-2301、FAX（06）873-2300

第21回日本分子生物学会年会　日程表（予定）

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
12月16日（水）			バイオテクノロジーセミナー			シンポジウム			ワークショップ		
		ポスター（説明・討論）				ポスター		ポスター（ミキサー）			
		展示会									
12月17日（木）			バイオテクノロジーセミナー			シンポジウム			ワークショップ		
		ポスター（説明・討論）				ポスター		ポスター（ミキサー）			
		展示会									
12月18日（金）			バイオテクノロジーセミナー		総会	シンポジウム			ワークショップ		
		ポスター（説明・討論）				ポスター		ポスター（ミキサー）			
		展示会									
12月19日（土）			バイオテクノロジーセミナー			シンポジウム					
		ポスター（説明・討論）				ポスター					
		展示会									

第21回ポスター発表分類表（Classification of poster sessions）

1　ゲノム（Genome）
- a　ゲノム構造（Genome structure）
- b　ゲノム機能（Genome function）
- c　ゲノム情報（Genome informatics）
- d　その他（Others）

2　分子構造（Molecular Structure）
- a　遺伝子・核酸（Genes and nucleic acids）
- b　タンパク質（タンパク質工学）（Protein（Protein technology））
- c　分子集合（Molecular assembly）
- d　分子進化（Molecular evolution）
- e　染色体外因子（ウイルス、ファージ、プラスミド）（Extra-chromosomal factors（Virus, Phage, Plasmid））
- f　糖（Carbohydrate）
- g　脂質（Lipid）
- h　その他（Others）

3　分子機能（Molecular function）
- a　複製（DNA、RNA、染色体）（Replication（DNA, RNA, Chromosome））
- b　組換え、修復、変異（Recombination, Repair, Mutation）
- c　転写（Transcription）
- d　翻訳（Translation）
- e　RNA 機能、RNA プロセッシング（RNA function, RNA processing）
- f　タンパク質のプロセッシングと局在化（Protein processing and localization）
- g　染色体外因子（ウイルス、ファージ、プラスミド）（Extra-chromosomal factors（virus, Phage, Plasmid））
- h　輸送と局在化（Transportation and localization）
- i　その他（Other）

4　細胞の構造（Cellular structure）
- a　核内構造と核機能（染色体、クロマチン、核小体）（Nuclear structure and function（Chromosome, Chromatin, Nucleolus））
- b　細胞質オルガネラ（ミトコンドリア、クロロプラスト等）の構造と機能（Organellas（Mitochondoria, Chroloplasts））
- c　生体膜、細胞骨格（Cell Membrane, Cytoskeleton）
- d　その他（Others）

5　細胞の機能（Cellular function）
- a　生理活性物質（Bioactive substance）
- b　細胞増殖（分裂、周期）（Cell proliferation（Division, Cell cycle））
- c　がん関連遺伝子、がん化（Oncogenes and Tumorsupressor genes, Tumorigenesis）
- d　エネルギー（Bioenergetics）
- e　運動（Cell Motility）
- f　シグナル伝達（Signal transduction）
- g　細胞形質転換（Transformation）
- h　アポトーシス（Apoptosis）
- i　その他（Others）

6　高次生命現象（Integrative and specialized cellular events）
- a　免疫（Immune system）
- b　発生、分化（形態形成）（Development, Differentiation（Morphogenesis））
- c　脳・神経系（Brain, Nervous system）
- d　老化（Aging）
- e　細胞間認識（Cell-cell interactions and recognition）
- f　がん（Cancer）
- g　遺伝病（Genetic disease）
- h　その他（Others）

7　分子生物学的方法論、技術（Methods and Techniques）
- a　DNA·RNA 工学（DNA, RNA technology）
- b　タンパク質工学（Protein technology）
- c　ノックアウト・トランスジェニック生物（Knockout, Transgenic animals and plants）
- d　病因解析および診断（Diagnosis）
- e　その他（Others）

8　生命情報科学・理論（Bioinformatics and theories）
- a　分子進化（Molecular evolution）
- b　その他（Others）

9　その他（Others）

シンポジウム

1.	ヒトゲノム解析	中村　祐輔 辻　　省次
2.	ゲノム生物学の最前線―生命の全体像の理解を目指して―	小原　雄治 小笠原直毅
3.	シグナル伝達とタンパク質間相互作用	稲垣　冬彦
4.	DNA 複製と組み換え：その制御と接点	正井　久雄 太田　邦史
5.	造血・免疫系における遺伝子発現の制御機構	谷口　維紹
6.	細胞内分子トラフィック	米田　悦啓
7.	細胞周期	岡山　博人
8.	細胞間の接着とシグナリング	月田承一郎 上村　　匡
9.	アポトーシスと疾患	長田　重一
10.	Molecular mechanisms of self vs. non-self discrimination by immune system —Basis for recognition and destruction of tumor cells—	笹月　健彦
11.	ヘリカーゼ病の分子生物学的解析	古市　幸宏 田中亀代次
12.	神経科学の最近のトピックス	清水　孝雄 三品　昌美

ワークショップ

1. 遺伝子ネットワークシミュレーションと遺伝子発現プロファイル情報の解析　高木　利久／宮野　悟
2. 遺伝的多様性の分子生物学　五條堀　孝／長谷川政美
3. タンパク質の基本構造（フォールド）—機能予測を目指して—　柴田　武彦
4. 糖鎖生物学　鈴木　明身／谷口　直之
5. DNA 修復の分子機構　花岡　文雄／安井　明
6. 転写因子からみる生物学とその応用　加藤　茂明／半田　宏
7. RNA と翻訳調節　中村　義一／内海　利男
8. タンパク質のプロセッシングと局在化　田中　啓二／市山　新
9. ウイルスの特性とベクターへの応用　斎藤　泉／永田　恭介
10. 分子シャペロン　永田　和宏
11. ヒストンアセチル化と遺伝子発現制御　大木　操／石井　俊輔
12. リピッド・メディエーターとシグナル伝達　成宮　周／梅園　和彦
13. 細胞周期とサイクリン依存性キナーゼ　田矢　洋一
14. シグナル伝達とリン酸化　竹縄　忠臣／山本　雅
15. TGF-β のシグナル伝達機構　宮園　浩平／多羽田哲也
16. 免疫担当細胞のシグナル伝達系　審良　静男／黒崎　知博
17. 細胞内 Ca^{2+} シグナル伝達の分子機構　古市　貞一／竹島　浩
18. がんの分子標的　鶴尾　隆／桑野　信彦
19. 老化の分子生物学　鍋島　陽一／石川　冬木
20. 免疫細胞の運命決定機構　高津　聖志／斎藤　隆
21. 発生における原理とは？　松崎　文雄／笹井　芳樹
22. ゲノムインプリンティングの機構と疾患　佐々木裕之／石野　史敏
23. 細胞からみた器官形成のメカニズム　藤沢　淳子／林　茂生
24. 血管壁の遺伝子転写と動脈硬化　永井　良三／丸山　征郎
25. 骨代謝調節の分子機構　野田　政樹／上野　直人
26. がんの浸潤・転移の分子機構　清木　元治
27. ノックアウト動物を用いた遺伝子機能解析　山村　研一／吉田　進昭
28. 神経回路形成と脳機能：分子から機能へ　中福　雅人／桝　正幸
29. 植物の形作りと細胞間ネットワーク　岡田　清孝／福田　裕穂
30. 植物バイオサイエンスの新展開　内宮　博文／廣近　洋彦

ワークショップ概要

1. 遺伝子ネットワークシミュレーションと遺伝子発現プロファイル情報の解析

世話人：高木利久（東京大学医科学研究所）、宮野　悟（東京大学医科学研究所）

急速な配列決定の進展により、ゲノム情報は新たな時代を迎えている。まず、*S. cerevisiae, E. coli, B. subtilis* を初め様々な生物の全ゲノム配列の決定が進み情報の基盤が整いつつある。それと同時にこれらのゲノムの上にコードされた全ての遺伝子の発現パターンの情報にもシステマティックにアクセスできるようになっている。本ワークショップでは、遺伝子発現データの情報解析のためのソフトウェアツールや遺伝子ネットワークのデータベースおよびそのシミュレーションをトピックとしてとりあげ、今後のゲノム情報の新たな展開について討論する。

2. 遺伝的多様性の分子生物学

世話人：五條堀孝（国立遺伝学研究所）、長谷川政美（統計数理研究所）

遺伝学的多様性の研究は、生物種としての多様性、生物集団内の遺伝的多形現象、細胞レベルやゲノム・染色体レベルの多様性、細胞内情報伝達系としての多様性、ハプロタイプやSNP(single nucleotide polymorphism）レベルの多様性、等というように生物学的階層性の各レベルにおいて広く行われつつある。特に、このような多様性研究の分子生物学的アプローチは、DNAチップなどの大量解析技術の進展とともに、生命現象の基本的理解だけでなく、医学や工学などにも新たな発展をもたらそうとしている。本ワークショップでは、このような視点に基づく多様性研究の最新の成果を発表していただき、有意義な情報交換の場を提供したい。

3. タンパク質の基本構造（フォールド）—機能予測を目指して—

世話人：柴田武彦（理化学研究所）

「アミノ酸配列は分かったが、ホモログも、モチーフも見つからない！　さて？」。タンパク質の「フォールド（基本構造）」は、基本機能を担う構造単位であり、その組み合わせで高次のタンパク質機能を発現する。アミノ酸配列が似てなくても同じフォールドとなる例が見付かってきた。そこで、フォールドと基本機能を体系的に対応付けできれば、アミノ酸配列からタンパク質機能を予測するための有力な辞典となろう。その実現の意義と戦略を探る。

4. 糖鎖生物学

世話人：鈴木明身（東京都臨床医学総合研究所）、谷口直之（大阪大学医学部）

糖鎖は核酸、タンパク質に次ぐ構造多様性を持つ第三の生物鎖で、生物学的意味・機能に関心がもたれている。すでに、糖転移酵素、糖供与体輸送タンパクを初め構造多様性をもたらす分子群の遺伝情報が明らかにされ、糖鎖生物学は次の展開が期待される転換期に入ってきている。本ワークショップでは、最近明らかにされた糖鎖合成に関わる分子の構造、発現制御、さらに作り出された糖鎖が関わる細胞認識、シグナルのオン・オフ機序など、糖鎖機能解析の進展を中心に、最新の情報交換の機会としたい。

5. DNA修復の分子機構

世話人：花岡文雄（大阪大学細胞生体工学センター）、安井　明（東北大学加齢医学研究所）

DNAの損傷や異常は細胞内の種々の修復機構によって修復されるが、修復の欠損は、個体にとって重大な諸疾患につながることが証明されつつあり、修復機能の重要性がますます認識されてきている。最近、修復という言葉がゲノムの恒常性を守る多彩な分子機構にまで拡張して使われてきている。本ワークショップでは、種々の除去修復やDNA鎖切断の修復機構のみならず、修復に至る道筋である細胞の損傷応答についても含めて議論を進める。

6. 転写因子からみる生物学とその応用

世話人：加藤茂明（東京大学分子細胞生物学研究所）、半田　宏（東京工業大学生命理工学部）

生物を構成する細胞は、常に外界から多種多様な刺激にさらされているが、個々の刺激に対して細胞は実に巧みに応答している。刺激は、まず細胞内で化学シグナルに変換される。そのシグナルは、伝達されて、特定転写因子の活性を変換することによって、転写因子の支配下にある遺伝子群の発現を促進的あるいは抑制的に制御する。その結果、個々の刺激に応答した細胞表現型が誘導される。この転写因子を介する制御が遺伝子異常などの内的要因や化学物質などの外的要因で破綻されると、生物は異常を来す。また、この破綻を正常化するための薬剤開発などの研究が盛んに行われている。本ワークショップでは、それらの研究の現状と展望について討論する。

7. RNA と翻訳調節

世話人：中村義一（東京大学医科学研究所）、内海利男（信州大学繊維学部）

RNA の動態や翻訳の調節は、がん、増殖、発生、分化、疾患等の、高次な細胞レベルの制御や発現に中心的な役割を演じており、本ワークショップでは、転写後の遺伝子発現調節における RNA の動的機能の分子メカニズムとそれらの細胞装置の機能構造を議論したい。なお、Harry Noller（カリフォルニア大学）、Marvin Wickens（ウイスコンシン大学）両博士の招待講演を予定している。

8. タンパク質のプロセッシングと局在化

世話人：田中啓二（東京都臨床医学総合研究所）、市山　新（浜松医科大学）

プロセッシングによる前駆体型タンパク質の成熟型への変換は、生合成されたタンパク質が細胞内で機能するために受ける翻訳後修飾の一つである。古くは酵素の活性化の例に多く見られたが、最近では、細胞内でのシグナル伝達の一翼を担うことや、オルガネラへのタンパク質局在化を決定する機構と結びつくことなどが判明しつつある。本ワークショップでは、タンパク質プロセッシングの分子機構とその生物学的役割に焦点を当てて最近の進歩を討論したい。

9. ウイルスの特性とベクターへの応用

世話人：斎藤　泉（東京大学医科学研究所）、永田恭介（東京工業大学生命理工学部）

ウイルスは自らが生きるために極めてユニークな特性を持っている。高い感染効率、染色体への組込み、複製するゲノムからの高発現、単一 RNA からの複数タンパクの翻訳など、ウイルスならではという数々の特性がウイルス学研究から見出され、その特性はウイルスベクターのユニークな長所として応用に生かされてきた。現在ベクター開発の分野は、将来の応用を念頭に置きながら積極的にウイルスのもつ新しい特性を見出してゆくという成熟した新段階を迎えつつあり、基盤ウイルス学研究との共有領域が広がってきている。本ワークショップでは、ウイルスのユニークな特性を解明する基盤ウイルス学研究と、応用の観点からのウイルスベクター開発研究とに関する最新の成果を発表していただき、それぞれの立場からウイルスの特性をどう解明しどう活かしてゆくかについての今後の方向性について討論を加えたい。

10. 分子シャペロン

世話人：永田和宏（京都大学再生医科学研究所）

タンパク質は、ポリペプチドとして翻訳されてから、正しい conformation へと折り畳まれ、それが機能する場へと正しく輸送されなければならない。分子シャペロンは、タンパク質の folding、輸送、その活性調節、さらには分解にまで関与する分子であり、種々の細胞機能調節に重要な役割を演じている。本ワークショップでは、シャペロンによる基質の認識、複数のシャペロン系による folding や会合のダイナミクス、膜透過の機構など、分子シャペロンの関与するタンパク質の細胞内動態および機能調節について演題を募集し、その働きの普遍性と特異性について議論を展開したい。

11. ヒストンアセチル化と遺伝子発現制御

世話人：大木　操（国立がんセンター研究所）

石井俊輔（理化学研究所ライフサイエンス筑波研究センター）

真核生物における遺伝子の発現は、ヒストンアセチル化などを介したクロマチン構造の変化により制御される。最近の解析からp300/CBPやSRC–1などのコアクチベーターや基本転写因子TAFII250がヒストンアセチル化酵素であることや、mSin3やN–CoR/SMRTなどのコリプレッサーが脱アセチル化酵素と複合体を形成することが明らかになり、アセチル化制御の分子機構が解明されつつある。また、白血病発症や細胞分化においてヒストンアセチル化の制御が重要であることが示されてきている。本ワークショップでは、ヒストンアセチル化を介した遺伝子発現および細胞増殖・分化の制御機構に関する研究を紹介する。

12. リピッド・メディエーターとシグナル伝達

世話人：成宮　周（京都大学大学院医学研究科）、梅園和彦（京都大学ウイルス研究所）

脂質には、脂質二重層の構成要素として細胞内外を隔てる障壁を形成する以外に、多機能性シグナル伝達分子としての役割が存在する。膜脂質に含まれる前駆体は酵素カスケードによる代謝を受け、イノシトール代謝産物、アラキドン酸代謝産物、ジアシルグリセロール、セラミドなどを産生し、細胞内外に対して、細胞増殖刺激、分化誘導、アポトーシスなど多種多様な影響を及ぼす。脂質修飾、コファクターとしての作用以外にも、リピッド・メディエーターは、細胞膜受容体や核内受容体を介したシグナル伝達カスケード活性化にも関与することが近年明らかになっている。本ワークショップでは、このような脂質シグナル伝達に関する最新のトピックスをとりあげ、脂質研究の進歩がもたらした新たな展開について討論する。

13. 細胞周期とサイクリン依存性キナーゼ

世話人：田矢洋一（国立がんセンター研究所）

サイクリン依存性キナーゼ（CDK）とそのインヒビターは、DNA複製開始や細胞分裂という現象の制御に重要な役割を演じており、その異常ががんやアポトーシスと深く関わっていることもわかりつつある。しかし、これらの生合成・分解の調節機構や、それぞれのCDK種によってリン酸化を受ける細胞内のターゲットタンパク質、それぞれのインヒビターを誘導する刺激などに関しては不明な点が多い。本ワークショップでは、主にそうした所に焦点を当てる。

14. シグナル伝達とリン酸化

世話人：竹縄忠臣（東京大学医科学研究所）、山本　雅（東京大学医科学研究所）

チロシンキナーゼ情報伝達系は、細胞の増殖、分化から神経の高次活動に至る様々な生理機能の情報伝達に関わっている。近年では、三量体型Gタンパク質に共役する受容体の下流にもチロシンキナーゼが存在し、情報のクロストークを行っていることや、多くのアダプターと呼ばれるタンパク質が存在し、チロシンキナーゼの情報をコントロールしていることが分かってきた。本ワークショップでは、様々なチロシンキナーゼとそれを取り巻くアダプタータンパク質に焦点を絞って、チロシンキナーゼ情報伝達において、いかに多様性と特異性が制御されているかについて討論したい。

15. TGF–βのシグナル伝達機構

世話人：宮園浩平（㈶癌研究会癌研究所）、多羽田哲也（東京大学分子細胞生物学研究所）

最近、TGF–βスーパーファミリーの細胞内シグナルを伝達する分子としてSmadが同定された。Smadはセリンースレオニンキナーゼ型レセプターによってリン酸化を受けたのちヘテロオリゴマーを作って核内へ移行し標的遺伝子の転写を調節している。Smadはショウジョウバエや線虫の形態形成やカエルの初期発生の過程で重要な働きを担っており、哺乳類でも細胞のがん化との関連が注目されていることから、Smadの役割を様々な角度から迫ってみたい。

16.　免疫担当細胞のシグナル伝達系

世話人：審良静男（兵庫医科大学）、黒崎知博（関西医科大学肝臓研究所）

リンパ球を初めとする免疫細胞が複雑なネットワークを形成し、異物や非自己に対して個体のホメオスターシスを維持しようとするのが免疫の役割である。個々のシグナル伝達や転写因子の活性化のメカニズムは、最近急速に明らかとなってきているが、細胞間や免疫ネットワークとしての時間的・空間的なシグナル伝達や転写因子の活性化の役割については不明な点が多い。本ワークショップでは、種々のシグナル伝達経路や転写因子の活性化が、免疫系の成立や機能発現にいかに関与しているかを明らかにしてみたい。

17.　細胞内 Ca^{2+} シグナル伝達の分子機構

世話人：古市貞一（東京大学医科学研究所）、竹島　浩（東京大学大学院医学系研究科）

様々な細胞刺激により細胞外からの Ca^{2+} 流入や細胞内ストアからの Ca^{2+} 放出が誘導されると、細胞質 Ca^{2+} 濃度が一過性に上昇する。この Ca^{2+} 上昇は多くの標的分子の活性を制御する最も普遍的なセカンドメッセンジャーの一つとして、多彩な生命現象に深く関わる。一方、このイオン性シグナル伝達の細胞内動態は空間的経時的な多様性を示す。本ワークショップでは、細胞内 Ca^{2+} シグナル伝達に関与する Ca^{2+} 関連分子と Ca^{2+} チャネルの最新の研究を中心に、その機能とダイナミクスの分子機構に迫る。

18.　がんの分子標的

世話人：鶴尾　隆（東京大学分子細胞生物学研究所）、桑野信彦（九州大学医学部）

最近、がん治療の分子標的を明確にし、その機能の解明を通して、機能を制御することによってがん治療に結び付けようとする研究動向が国際的にも明らかになりつつある。わが国においてもがん分子標的治療学会が組織され、「がん遺伝子産物・シグナル伝達系・転写因子」、「DNA 複製・修復」、「細胞周期」、「転移・浸潤」、「耐性、感受性因子」、「サイトカイン・分化」、「アポトーシス」、「細胞骨格」、「遺伝子治療」などに関与する分子標的の機能とその治療への応用について討論されている。本ワークショップでは、広く会員にこの方面の基礎的な研究に興味を持っていただくために企画された。活発な参加をお願いしたい。

19.　老化の分子生物学

世話人：鍋島陽一（国立精神・神経センター神経研究所）、石川冬木（東京工業大学生命理工学部）

近年、老化現象の諸局面を分子生物学的に理解することが可能となりつつある。翻ってその結果は、老化に密接に関わる生命現象の正確な定義と、科学としての老化研究の枠組みを提供するであろう。昨年度の本年会で行われた本ワークショップは、大変熱心かつ有意義な討論が行われた実り多いものであった。このような老化研究への関心の高まりを受けて、今年度は、この一年間の新たな進展、あるいは前回取り上げなかった老化に関連する重要な分子生物学的・生化学的あるいは遺伝学的研究成果を第一線の研究者により紹介していただき、聴衆を含めた活発な討論により今後の老化研究の動向を占う。

20.　免疫細胞の運命決定機構

世話人：高津聖志（東京大学医科学研究所）、斎藤　隆（千葉大学大学院医学研究科）

免疫細胞の運命決定はその前駆細胞からの分化過程と、成熟細胞が機能を変化させる過程でなされる。分化過程において、自己反応性の細胞を除去するネガティブ選択と抗原認識可能な細胞を選ぶポジティブ選択がなされる。成熟細胞は抗原刺激によって活性化され、増殖・分化、細胞死、不応答のいずれかの運命を辿る。本ワークショップでは、免疫細胞の運命決定に関与する分子とその制御機構を明らかにし、免疫細胞の多様性の形成と生体防御系の維持のメカニズムに迫ってみたい。

21.　発生における原理とは？

世話人：松崎文雄（国立精神・神経センター神経研究所）、笹井芳樹（京都大学大学院医学研究科）

発生が分子の言葉で語られるようになって以来、形態の違いや種を超えて、普遍的な発生のメカニズムを理解することが可能になって来ているが、その反面、膨大な知識の集積に埋没して、根本的な問題を見失いはしないかとの不安にも駆られる。本ワークショップでは、細胞の極性、位置情報、誘導といった古典的に重要な概念を、遺伝情報の発現という観点からとらえ直し、新たなパラダイムの可能性を探ってゆきたい。

22.　ゲノムインプリンティングの機構と疾患

世話人：佐々木裕之（九州大学遺伝情報実験施設）、石野史敏（東京工業大学遺伝子実験施設）

両親由来の対立遺伝子間に発現量の差をもたらすゲノムインプリンティング現象は、個体発生を初め様々な生物現象と関連している。最近特に注目されているのは、非メンデル現象を示す疾患や発がんにおける役割である。マウスの分子生物学的研究から明らかになりつつあるインプリンティングの機構と、これらヒトの病気の発症メカニズムに重点を置いて、インプリンティングの分子レベルの研究の現状と展開を討論する。

23.　細胞からみた器官形成のメカニズム

世話人：藤沢淳子（東京都臨床医学総合研究所）、林　茂生（国立遺伝学研究所）

本ワークショップでは、高等多細胞生物の器官形成をささえる分子機構に焦点を当てる。器官を構築する細胞の持つ多彩な能力は局所的な細胞間の相互作用と、そこで活躍するシグナル分子や転写因子によって制御されていることが明らかにされつつある。これらの成果をふまえ、種々の器官形成における細胞間のコミュニケーションと細胞分化の理解にせまる研究をとりあげ、器官形成機構に潜む普遍性と独自性を考察する機会とする。

24.　血管壁の遺伝子転写と動脈硬化

世話人：永井良三（群馬大学医学部）、丸山征郎（鹿児島大学医学部）

血管壁細胞における遺伝子発現は、血管の機能分化だけでなく病態形成にも深く関与する。特に血管壁における細胞増殖制御機構や凝固線溶系の理解は動脈硬化や個体老化の病態解明の基礎となる。また血管新生は、動脈硬化、血管形成術後の再狭窄、そして腫瘍増殖にも関わっている。本ワークショップでは、血管の発生・分化や動脈硬化などの血管病態の形成に伴って、内皮・平滑筋細胞で生ずる遺伝子発現の変化がどのような転写調節機構を介するか、また研究の成果が病態の理解や治療にどのように応用されているかを紹介するとともに、今後の研究の展望を討論する。

25.　骨代謝調節の分子機構

世話人：野田政樹（東京医科歯科大学難治疾患研究所）、上野直人（基礎生物学研究所）

高齢化社会において急増する骨粗鬆症の治療法の確立の為には、骨の吸収ならびに形成に関わる分子機構の解明が必要となる。骨量減少に至る骨吸収の亢進には造血系由来細胞である破骨細胞の形成ならびにその活性化機序の異常が推察されるが、破骨細胞の分化において重要な役割を持つ分子の１つとして、骨芽細胞や間質細胞の発現する膜タンパクが同定され、その機能の研究における大きな進展が見られている。骨芽細胞の分化決定機構の解明とともに、骨芽細胞ならびに破骨細胞の両者間のシグナル分子の研究により、骨代謝の平衡維持の分子機構の解明が期待される。本ワークショップでは、これらの破骨細胞、骨芽細胞の分化決定、ならびに骨芽細胞、破骨細胞間の相互作用を担う新しいシグナル分子の機能をテーマとして、転写因子群、細胞内および細胞間シグナル分子群、ならびに骨マトリックスタンパク質等の分子群の機能に関する最新の研究について討論を行う。

26.　がんの浸潤・転移の分子機構

世話人：清木元治（東京大学医科学研究所）

浸潤・転移はがんの治療を困難にする最大の原因の一つである。悪性のがん細胞では、増殖や死の制御からの逸脱とともに、周辺の細胞や細胞外基質と相互作用して、組織の構造と機能を維持する機構も破綻している。細胞の接着、運動、細胞外基質の再編に関係する色々な因子が浸潤・転移と関係することが明らかになりつつある。本ワークショップでは、がんの悪性形質の理解を深める一方で、多細胞生物の組織構築と制御を理解するためのユニークな切り口を与えているこれらの話題を取り上げる。

27.　ノックアウト動物を用いた遺伝子機能解析

世話人：山村研一（熊本大学医学部）、吉田進昭（東京大学医科学研究所）

ジーンターゲティング法を用いた遺伝子欠損動物の作成と解析は、生体内における遺伝子機能を解析する手段として定着した。最近は、組織・細胞特異的な遺伝子欠損や誘導型遺伝子欠損などのコンディショナルジーンターゲティング、あるいは遺伝子トラップによるランダムターゲティングも広まっており、よりエレガントな遺伝子機能解析法となってきている。本ワークショップでは、ヒト疾患モデルとしての観点からのターゲティングをトピックとして取り上げるとともに、このようなターゲティング技術を用いた今後の展開を議論したい。

28.　神経回路形成と脳機能：分子から機能へ

世話人：中福雅人（東京大学大学院医学系研究科）、桝　正幸（筑波大学基礎医学系）

神経回路形成は、神経細胞の発生・分化に始まり、軸索ガイダンス・シナプス形成、更にはシナプス機能の可塑的修飾を経て最終的に機能的ネットワークの構築へと至る。近年の発生工学・分子生物学の発展に伴い前半のステップの分子レベルでの理解は急速に進みつつあるが、後半の形態形成から機能獲得へ至る過程についてはまだ十分に理解されていない。本ワークショップでは、神経回路形成機構および神経機能の解析を行っている研究者を広く募り、この過程の解明へ向けての最新の研究について発表していただくとともにお互いに情報を交換できる場としたい。

29.　植物の形作りと細胞間ネットワーク

世話人：岡田清孝（京都大学大学院理学研究科）、福田裕穂（東京大学大学院理学系研究科）

最近の分子生物学の急速な進展によって、植物体の形作りの各局面において主要な役割を果たす遺伝子が得られ、遺伝子産物の機能が明らかにされてきた。器官の発生や細胞の分化を制御する転写制御因子の関与が明らかになり、これらの因子の発現を制御する細胞内シグナル伝達の機構について研究が進められている。同時に、植物体の組織化、特に細胞分裂、細胞伸長、細胞分化の時間・空間的な制御に働く植物細胞間の情報の伝達ネットワークについても解析が始められた。本ワークショップでは、これらの研究の現状を紹介し、展望について議論する場を提供したい。

30.　植物バイオサイエンスの新展開

世話人：内宮博文（東京大学分子細胞生物学研究所）、廣近洋彦（農林水産省農業生物資源研究所）

近年、植物における分子細胞生物学の進展は、目覚ましいものがある。その全てを網羅することはできないが、以下の諸テーマにつきまとめたい。細胞の生と死の切り替えのチェックポイントの検証、新しいトランスポゾンを用いた遺伝子解析とその展開、転写制御機構、ストレス応答のシグナルトランスダクション、糖やホルモンセンサー機構のダイセクションなどのテーマを中心に討論する。

（記入例）

第21回 日本分子生物学会年会 発表申込書

演題番号＊　　　　　　受付番号＊

本年度会費領収書コピー貼付位置

連絡先　氏名　真鍋　俊也
住所（〒 113-0033）
東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院医学系研究科
神経生理学教室
TEL（03）3812-2111（ext.3538）
FAX（03）3805-3315

-------（切離さないこと）-------

人名索引編集用カード

演題番号＊　　　　　　受付番号＊

	ひらがな		漢字	
	Family Name	First Name	Family Name	First Name
1	まなべ	としや	真鍋	俊也
2	あいば	あつ	饗場	篤
3	いちせ	たえこ	市瀬	多恵子
4	やまだ	あつし	山田	篤
5	さかがみ	ひろゆき	坂上	洋行
6	こんどう	ひさたけ	近藤	尚武
7	かつき	もとや	勝木	元也
8				
9				
10				

（記入例）

第21回 日本分子生物学会年会 講演要旨用紙

演題番号＊＿＿＿＿＿＿　受付番号＊＿＿＿＿＿＿

ワークショップ　希望番号 28 ，ワークショップを希望しません

ポスター発表　第一希望分野 6－c，第二希望分野 6－b

関連演題順序 “中枢神経系での Ras タンパク質の発現” ○中村健司の次

この部分は写真印刷です。曲げたり、汚したりしないで下さい。

演題名 氏名 （所属略記）	中枢神経系における Ras タンパク質の機能 ○真鍋俊也[1]，饗場　篤[2]，市瀬多恵子[2]，山田　篤[2]，坂上洋行[3]，近藤尚武[3]，勝木元也[2]（[1]東大・院医・神経生理，[2]同・医科研・ヒト疾患セ，[3]東北大・医・解剖）
Title Name (Affiliation)	Function of Ras protein in mouse brain ○Toshiya MANABE[1], Atsu AIBA[2], Taeko ICHISE[2], Atsushi YAMADA[2], Hiroyuki SAKAGAMI[3], Hisatake KONDO[3], Motoya KATSUKI[2], ([1]Dept. of Neurophysiol., [2]Ctr. for Exp. Med., Univ. of Tokyo, [3]Dept Histol., Tohoku Univ.)
	Ras タンパク質は，細胞の増殖や分化に重要な働きをしているシグナル伝達分子と考えられている。しかし，細胞増殖がほとんど・・・

第21回日本分子生物学会年会

割引航空券・宿泊等のご案内

年会ご参加の皆様にご便宜をお図りする為、航空券・宿泊等のお世話を㈱三慶（Medy Tour）が取り扱わせていただくことになりました。会員の皆様には、お誘い合わせのうえ、多数ご利用下さいます様ご案内申し上げます。

会期：平成10年12月16日（水）～19日（土）

株式会社　三　慶

■宿泊のご案内

●料金は、1泊朝食付・税金・サービス料込みのお一人様の料金です。
※一部のホテルは、室料のみとなります。予めご了承下さい。

区分	ホテル名	料金		記号
A	パンパシフィックホテル横浜　【会場に隣接】 ※SGLは、TWNの1名様使用となります ※TWN・TRPのご宿泊が大変お得です	SGL	19,500円	AS
		TWN	11,000円	AT
		TRP	11,000円	AR
B	ザ・ホテルヨコハマ　（室料のみ） ※SGLは、TWNの1名様使用となります	SGL	10,500円	BS
		TWN	7,900円	BT
C	横浜伊勢佐木町ワシントンホテル	SGL	10,000円	CS
		TWN	9,000円	CT
D	三愛ヨコハマホテル マンダリンホテル	SGL	8,800円	DS
		TWN	7,700円～8,500円	DT

※ツインをご利用の方は同室の方のお名前もご記入下さい。
※ご希望のホテルがございましたらお書き下さい。なお、満室の場合はご希望に添えない場合があります。予め、ご了承下さい。
※ザ・ホテルヨコハマへ12／18のみご宿泊のお客様は、SGL：15,750円 TWN：9,800円となります。

【会場】パシフィコ横浜	〒220－0012横浜市西区みなとみらい1－1－1 TEL：045－221－2155 JR桜木町駅より路線バスにて約7分（210円）です。または、徒歩10分。 パンパシフィックホテル横浜に隣接。

★各ホテルの立地は下記の通りです。

	ホテルまで	会場まで
パンパシフィックホテル横浜	JR・東急線桜木町駅より　歩10分	歩1分（隣接）
ザ・ホテルヨコハマ	JR・東急線桜木町駅より　車5分 JR石川町駅より　歩10分	車10分/JR線5分 歩10分
横浜伊勢佐木町ワシントンホテル	JR関内駅より　歩4分 地下鉄 伊勢佐木長者町駅3出口より　歩1分	車10分/JR線3分 歩10分
マンダリンホテル	JR・東急線桜木町駅より　歩7分 京浜急行線日ノ出町駅より　歩2分	車10分
三愛ヨコハマホテル	JR・東急線桜木町駅より　歩5分	歩15分/車5分

■航空券（団体設定便）のご案内

★団体設定便をご希望の方は、申込書に記号をご記入下さい。
★設定便は、団体特別運賃を適用しておりますので、各便に15名様以上のお申し込みがあった場合のみ適用となります。
★お申し込み人数が15名様に満たない場合、便の変更をお願いするか、割増運賃でのご案内となります。予めご了承下さい。
★団体便の決定は、締切日以降とさせて頂きます。その後の事前購入割引等へのご変更は、日付によりお取り扱いできない場合がございます。
★設定便以外・事前購入割引等をご希望の方は、"■設定便以外・事前購入割引のご案内"をご覧下さい。
★料金・出発時間は1998年4月現在の資料に基づいておりますので変更になる場合がございます。

●札幌⇦⇨東京　普通運賃25,000円　団体設定便 11,600円～15,300円

【往路】札幌⇨東京（約1時間30分）				
搭乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/15	火	12:30～13:00	12,800円	ST-1
		14:30～15:30	14,100円	ST-2
		16:40～18:10		ST-3
		19:00～19:40	12,800円	ST-4
		20:30～21:00	11,600円	ST-5
12/16	水	08:00～09:00	12,800円	ST-6
		10:00～11:00		ST-7
		12:30～13:00		ST-8
		15:30～16:40	14,100円	ST-9
		19:00～19:40	12,800円	ST-10
12/17	木	08:00～09:00	12,800円	ST-11
		10:00～11:00		ST-12

【復路】東京⇨札幌（約1時間30分）				
搭乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/18	金	16:00～17:00	14,100円	TS-1
		18:00～19:00		TS-2
12/19	土	12:10～13:00	15,300円	TS-3
		14:00～14:50	14,100円	TS-4
		16:00～17:00		TS-5
		18:00～19:00		TS-6
		20:00頃	15,300円	TS-7
12/20	日	12:10～13:00	12,800円	TS-8
		14:00～14:50		TS-9
		16:00～17:00		TS-10
		18:00～19:00		TS-11

●福岡⇦⇨東京　普通運賃27,400円　団体設定便 14,000円～16,700円

【往路】福岡⇨東京（約1時間30分）				
搭乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/15	火	12:20～13:20	14,000円	FT-1
		15:30～16:00		FT-2
		17:00～17:40		FT-3
		19:30～20:50		FT-4
12/16	水	07:00～07:30	14,000円	FT-5
		08:20～09:20		FT-6
		10:00～11:00		FT-7
		12:20～13:20		FT-8
		15:30～16:00		FT-9
		17:00～17:40		FT-10
12/17	木	07:00～07:30	14,000円	FT-11
		08:20～09:20		FT-12
		10:00～11:00		FT-13

【復路】東京⇨福岡（約1時間30分）				
搭乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/18	金	17:00～18:00	15,400円	TF-1
		19:00～19:30		TF-2
12/19	土	12:00～13:00	16,700円	TF-3
		14:20～15:00	15,400円	TF-4
		17:00～18:00		TF-5
		19:00～19:30		TF-6
		20:00～20:20		TF-7
12/20	日	12:00～13:00	14,000円	TF-8
		14:20～15:00		TF-9
		17:00～18:00		TF-10
		19:00～19:30		TF-11

●小松⇦⇨東京　普通運賃16,200円　団体設定便 9,500円～9,500円

【往路】小松⇨東京（約1時間）				
塔乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/15	火	14:15頃	9,900円	QT-1
		19:00～19:55		QT-2
12/16	水	09:40～10:10	9,900円	QT-3
		14:15頃		QT-4
		19:00～19:55	9,900円	QT-5
12/17	木	09:40～10:10		QT-6

【復路】東京⇨小松（約1時間）				
塔乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/18	金	17:00～18:00	9,500円	TQ-1
12/19	土	17:00～18:00		TQ-2
12/20	日	17:00～18:00		TQ-3

●長崎⇦⇨東京　普通運賃29,450円　団体設定便 15,500円～16,500円

【往路】長崎⇨東京（約1時間40分）				
塔乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/15	火	12:10頃	15,500円	NT-1
		16:20～17:20		NT-2
		19:30～20:00		NT-3
12/16	水	10:20頃	15,500円	NT-4
		12:10頃		NT-5
		16:20～17:20		NT-6
12/17	木	10:20頃		NT-7

【復路】東京⇨長崎（約1時間50分）				
塔乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/18	金	16:30～17:30	16,500円	TN-1
12/19	土	13:40～14:30		TN-2
		16:30～17:30		TN-3
12/20	日	16:30～17:30	15,000円	TN-4

●熊本⇦⇨東京　普通運賃27,600円　団体設定便 14,100円～15,900円

【往路】熊本⇨東京（約1時間35分）				
塔乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/15	火	11:10～12:30	14,600円	KT-1
		15:35頃	15,900円	KT-2
		17:30～18:00	14,600円	KT-3
12/16	水	08:00～08:40		KT-4
		11:10～12:30		KT-5
12/17	木	08:00～08:40		KT-6

【復路】東京⇨熊本（約1時間40分）				
塔乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/18	金	14:40～15:30	15,500円	TK-1
		18:20頃		TK-2
12/19	土	14:40～15:30	15,500円	TK-3
		18:20頃		TK-4
12/20	日	14:40～15:30	14,100円	TK-5
		18:20頃	15,500円	TK-6

●大分⇦⇨東京　普通運賃25,500円　団体設定便 13,000円～14,800円

【往路】大分⇨東京（約1時間30分）				
塔乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/15	火	12:00頃	13,600円	IT-1
		16:30頃	14,800円	IT-2
		18:00～19:00	13,600円	IT-3
12/16	水	08:20～09:10		IT-4
		12:00頃		IT-5
		16:30頃	14,800円	IT-6
12/17	木	08:20～09:10	13,600円	IT-7

【復路】東京⇨大分（約1時間30分）				
塔乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/18	金	15:30～16:20	14,400円	TI-1
		18:30頃		TI-2
12/19	土	13:00頃	14,400円	TI-3
		15:30～16:20		TI-4
		18:30頃		TI-5
12/20	日	15:30～16:20	13,000円	TI-6

●鹿児島⇦⇨東京　普通運賃28,950円　団体設定便 13,400円～15,300円

【往路】鹿児島⇨東京（約1時間40分）

搭乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/15	火	15:30頃	15,300円	GT-1
		17:50頃		GT-2
		19:40～20:30		GT-3
12/16	水	11:00～11:30	15,300円	GT-4
		15:30頃		GT-5
12/17	木	11:00～11:30		GT-6

【復路】東京⇨鹿児島（約1時間40分）

搭乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/18	金	17:00～18:00	14,900円	TG-1
12/19	土	14:50頃		TG-2
		17:00～18:00		TG-3
12/20	日	17:00～18:00	13,400円	TG-4

●宮崎⇦⇨東京　普通運賃27,350円　団体設定便 14,000円～15,4000円

【往路】宮崎⇨東京（約1時間30分）

搭乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/15	火	13:40頃	14,500円	JT-1
		19:00～20:00		JT-2
12/16	水	09:15頃	14,500円	JT-3
		13:40頃		JT-4
12/17	木	09:15頃		JT-5

【復路】東京⇨宮崎（約1時間35分）

搭乗日		出発時間帯	割引運賃	記号
12/18	金	16:40～17:30	15,400円	TJ-1
12/19	土	16:40～17:30		TJ-2
12/20	日	16:40～17:00	14,000円	TJ-3

■設定便以外・事前購入割引のご案内

●設定便以外の便のご予約も承ります。
　ご希望の方は、申込書に日付・区間・ご希望時間等を具体的にご記入下さい。

●事前購入割引等の航空会社設定の割引もお取り扱い致します。

- ご希望の方は、申込書に具体的にご記入下さい。（ご記入がない場合は事前購入割引のご手配は致しません。）
- ご利用条件・取消料等は航空会社の規定に基づきます。
- 団体設定便との重複予約はお受けできません。
- 事前購入割引の座席数には限りがございます。満席の場合はご希望に添えないこともありますのでご了承下さい。

事前購入割引運賃の割引率とご利用条件は下記の通りです。（1998年4月現在）
下記は日本航空の割引率です。事前購入割引の設定と割引率は航空会社により異なります。また、運賃の改訂等により割引率が変更になる場合がありますので、ご利用の際にご確認下さい。

	前売28		前売21		前売14	
	平日	金～日・祝日	平日	金～日・祝日	平日	金～日・祝日
割引率	約50％	約35％	約30％	約20％	約20％	約15％
予約期限	28日前まで		21日前まで		14日前まで	
予約変更	不可					
取消料	50％		35％		25％	
払戻手数料	￥420					

■団体設定便・宿泊　受付期間

1998年11月16日（月）まで

※締切日以降でもお申し込みをお受け致します。
ご希望に添えない場合もございますが、是非お問い合わせ下さい。

★団体設定便以外の航空券はご出発直前まで承ります。

※当社よりチケットをお送りする期間（2～3日）が必要です。

■国内旅行傷害保険のご案内

12月14日〜12月20日の間で家を出られてからお帰りまでのご旅行期間中、下記の内容にてお取り扱いしております。ご希望のタイプをご記入下さい。

		A	B	C
補償内容	死亡・後遺障害	4,256万円	3,149万円	1,969万円
	入院（日額）	10,000円	8,000円	6,000円
	通院（日額）	5,000円	4,000円	4,000円
保険料		2,000円	1,500円	1,000円

※お申し込み頂いた国内旅行傷害保険に関しまして、予約確認書に契約書番号が明記されますので、旅行終了まで大切に保管しておいて下さい。なお、保険契約はご入金確認後有効となります。
※76歳以上の方は、補償内容が異なりますのでお問い合わせ下さい。

■お申し込みおよびお支払い方法

- ●お申込方法：申込書にご記入のうえ、郵送又はファクシミリでお早めにお申し込み下さい。
- ●ご予約の回答：締切日以降、予約確認書と振込用紙をお送り致します。
- ●お支払い方法：予約確認書と振込用紙が届きましたら、原則として5日以内にお振り込み下さい。
- ●お振り込み先：第一勧業銀行池袋支店　【当座】0116112 株式会社　三慶
  東京三菱銀行池袋東口支店【当座】9014375
- ●チケットの発送：ご入金確認のうえ、ご出発の1週間〜4日前頃までに宅配便にてお送り致します。
- ●通信諸経費：お申込み1名様につき、500円を申し受けます。

■取り消し料

お申し込み後、お客様のご都合で予約を取り消される場合は、1名様1件につき下記の取り消し料を頂きます。

●航空券（団体設定便ご利用の場合）

	14日前から4日前まで	ご搭乗日の3日前以降
小松⇔東京	3,000円	5,000円
上記以外の路線	4,000円	7,000円

★団体設定便は、搭乗日又は便の変更の場合でも、取り消し料がかかりますのでご注意下さい。その他の航空券に関しましては、航空会社の規定に基づきます。
★"14日前"・"3日前" が土・日・祝日の場合はその前の平日より取り消し料の対象となりますので、ご注意下さい。

●宿泊

14日前から4日前まで	3日前以降	当日	無連絡の場合
500円	宿泊料の30％	宿泊料の80％	宿泊料の100％

●取り消し等によりご返金が発生した場合、現金書留にてご返金致します。その際、返送料実費を差し引かせて頂きますのでご了承下さい。なお、ご返金は学会終了後1か月後をめどにご返金致します。

■お申し込みおよびお問い合わせ先

株式会社 三　慶
東京都知事登録国内旅行業第2－2455号

営業時間：平日9：30〜18：30
定 休 日：土・日・祝日

TEL：03－3987－2631／FAX：03－3987－4659
〒171－0022 東京都豊島区南池袋1－13－21 新野出ビル6F

第21回日本分子生物学会年会

航空券・宿泊等 申込書

当社記入		
	管理No	
	申込日	月　日
	入力	月　日
	予確発送	月　日

★必ずコピーをお取り下さい。

予約確認書送り先氏名:	
予約確認書送り先住所:	
TEL(勤務先)	TEL(自宅)
FAX	※FAXのある方は必ずご記入下さい。

	フリガナ / 氏名	年齢	性別	往路	復路	宿泊タイプ	宿泊日	保険タイプ
記入例	フリガナ サンケイ タロウ 氏名 三慶 太郎	29	(男)・女	ST－1	TS－2	AS	12/15 より 4 泊	A
	通信欄(設定便以外等 具体的にご記入下さい)							
1	フリガナ 氏名		男・女				12／ より 泊	
	通信欄(設定便以外等 具体的にご記入下さい)							
2	フリガナ 氏名		男・女				12／ より 泊	
	通信欄(設定便以外等 具体的にご記入下さい)							
3	フリガナ 氏名		男・女				12／ より 泊	
	通信欄(設定便以外等 具体的にご記入下さい)							
4	フリガナ 氏名		男・女				12／ より 泊	
	通信欄(設定便以外等 具体的にご記入下さい)							
5	フリガナ 氏名		男・女				12／ より 泊	
	通信欄(設定便以外等 具体的にご記入下さい)							

㈱三 慶 〒171-0022 東京都豊島区南池袋1-13-21 ☎03-3987-2631/FAX03-3987-4659

◆学会費（年度会費）納入についてのお願い

1. 1998年度分および未納分の学会費を1997年12月にお送りした請求書（郵便振替用紙）により下記の通り納入して下さい。なお、学生会費を納入される方は、細則第2条により、在学証明書（学生証のコピー可）を日本学会事務センター（東京）へ提出して下さい。

   正会員学会費　4,500円、学生会員学会費　3,000円

   学会費の納入に際しては年会参加費と混同しないようにお願いします。

2. 年会の発表申込には、学会費納入控（または領収書）のコピーを添付することが必要です。発表を希望される方は、学会費納入控（または領収書）を保管しておいて下さい。

◆日本分子生物学会への入会申込みの手順について

日本分子生物学会に入会を希望される方は、書面または電話により下記宛お申込み下さい。所定の書式をお送りします。なお、年会の演題締切時期（7月～8月）は入会者が多く混雑いたしますので、早目の入会手続きをお勧めします。

〒113-8622　東京都文京区本駒込 5-16-9　学会センター C21
　　　㈶日本学会事務センター・会員業務　日本分子生物学会　係
　　　TEL (03) 5814-5810　FAX (03) 5814-5825

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会推薦の研究助成、学術賞について次の方々が採択されました。

1. 第24回（平成９年度）日産学術研究助成：奨励研究
小林麻己人（自治医科大学　助手）前脳最前部で発現するホメオボックス遺伝子の機能解析
東谷篤志（東北大学遺伝生態研究センター　助教授）細胞周期チェックポイント制御の研究
名田茂之（大阪大学微生物病研究所　助手）シナプスの成熟にかかわる情報伝達分子の同定

2. 第38回（平成９年度）東レ科学技術研究助成
黒崎知博（関西医科大学　教授）細胞内情報伝達における脂質代謝系酵素の機能解明
吉村昭彦（久留米大学医学部　教授）CIS ファミリーによるサイトカインシグナルの制御機構と生理機能

本学会選考委員会の審査に基づいて、下記の方々を山田科学振興財団1998年度研究援助に推薦いたしました。

長谷川浩二（京都大学大学院医学研究科　助手）心筋細胞分化における transcriptional co-activator p300 の役割　―p300 による心筋特異的転写調節機構の解明―

川上浩一（東京大学医科学研究所　助手）ゼブラフィッシュのストライプパターン形成を制御する F-box/WD40 リピート蛋白質の機能解析

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No. 59に一覧として掲載しています。そのうち応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物
   1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
   2) 本学会の５名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計６部（論文は不要）
   3) 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出先
日本分子生物学会　選考委員長　饗場弘二
〒464-8602　名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻
FAX（052）789-3001

3. 提出期限
財団等の締切りの１か月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は選考の対象にならないことがあります。

◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○第1回国際シンポジウム「Disease Prevention by IP_6 and Other Rice Components」

このシンポジウムは、米の高度利用に関する初めてのシンポジウムであり、その社会的有用性を国内外に知っていただくよい機会ですので、奮ってご参加下さい。

会　期：1998年6月8日（月）、9日（火）

会　場：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）

組織委員会委員：

石川隆俊（委員長、東大・医 学部長）、五十嵐脩（お茶の水大 教授）、伊東信行（名古屋市大 学長）、小川誠一郎（慶応大 教授）、A. K. M. Shamsuddin（メリーランド大 教授）、菅野晴夫（癌研 名誉所長）、田端英世（和歌山県工業技術セ 所長）

事務局：

築野食品工業株式会社 内
〒649-7194 和歌山県伊都郡かつらぎ町新田94
TEL（0736）22-8000、FAX（0736）23-2087
E-mail: sympo@tsuno.co.jp
ホームページ：http://www.tsuno.co.jp

（シンポジウム開催期間中）
財団法人 国立京都国際会館 内
〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
TEL（075）705-1234、FAX（075）705-1100
テレックス：5422-353INTHAL J

シンポジウムの概要：

シンポジウムは招待講演、ポスターセッション、展示コーナーにより構成されています。招待講演者もポスターセッションに参加し、一緒にディスカッションできる機会を作ります。展示コーナーでは関連技術、米、米糠からの製品およびそれらの商品群を展示いたします。レセプションは会館の「桜」で6月8日19：00より開催いたします。

招待講演の内容：

1. イノシトールと IP_6 の生理活性
   1) 細胞情報伝達について
   2) 大腸癌、乳癌、肺癌、肝臓癌予防効果
   3) 心臓病予防効果
   4) その他の有用性
2. フェルラ酸、米油、およびその他の成分の有用性
   1) フェルラ酸の抗酸化機能およびその利用
   2) 米油および米糠に含まれるその他の生理活性物質の機能
3. 米糠に含まれる有効成分の化学・生化学

講演は、日本語と英語の同時通訳により行います。ただし、アブストラクト、ポスターおよびプロシーディングズは全て英文です。また、今回のシンポジウムの内容を本にまとめる予定です。

登録料：

一般20,000円、学生5,000円、懇親会費5,000円（6月8日）

下記宛てにお振込み下さい。
三和銀行和歌山支店　普通5072715
シンポジウム開催事務局 宛

○第4回日本生化学会春季シンポジウム（4 th CGGH Symposium 1998）「細胞外マトリックス研究の新しい歩み」"*Frontiers in Matrix Biology*"

会　期：1998年6月20日（土）～22日（月）

会　場：広島国際会議場（広島市中区中島町）

オーガナイザー：

二宮善文（岡山大・医）、吉里勝利（広島大・理）

主　催：日本生化学会・CGGH フォーラム

共　催：㈶国際協力医学研究振興財団

後　援：国際マトリックス生物学会（ISMB）、日本分子生物学会、日本細胞生物学会、日本結合組織学会、マトリックス研究会

6月20日（土）：

12：00～13：00　Registration and Opening

13：00～14：00　Plenary Lecture

Cell/Matrix signaling in vascular morphogenesis
Bjorn R. Olsen (Harvard Med. Sch., Boston)

14：30～17：30　Session Ⅰ：Morphogenesis and Organogenesis

Cbfal and bone formation
Gerard Karsenty (MD Anderson, Houston)

Integrin knockout　Reinhard Faessler (Max-Planck Inst., Martinsried)

Meltrin family　Junko Fujisawa (Natl. Ctr. for NMMD, Kodaira)

18：30～19：30　Meet the Speakers

6月21日（日）：

9：00～12：00　Session Ⅱ：Tissue Regeneration

Epithelial integrins　Dean Sheppard (Univ. of California, San Francisco)

Proteoglycans in development
Scott B. Selleck (Univ. of Arizona, Tucson)

Liver regeneration
George K. Michalopoulos (Univ. of Pittsburgh)

Mesenchyme-dependent hepatocyte growth
Katsutoshi Yoshizato (Hiroshima Univ.)

14：00～17：00　Session Ⅲ：Molecular Genetics and Protein Function

Metaphyseal chondrodysplasia
John Bateman (Univ. of Melbourne, Parkville)

Triple-helix formation
Michel van der Rest (CNRS-CEA, Grenoble)

Gene therapy　Darwin Prockop (Allegheny Univ., Philadelphia)

Regulation and function of HSP47
Kazuhiro Nagata (Kyoto Univ.)

18：30～21：00　Reception: ANA Hotel Hiroshima

6月22日（月）：

9：00～12：00　Session Ⅳ：Vascular Biology and Tumor Metastasis

Endostatin　Michael O'Reilly (Children's Hosp./HMS, Boston)

Building a blood vessel　Charles Little

(Med. Univ. of South Carolina, Charleston)
TIMP transgenic mice Rama Khokha
(Princes Margaret Hosp., Toronto)
MT-MMPs Motoharu Seiki (Univ. of Tokyo)

問合先：
〒739-0046 東広島市鏡山1-3-1
広島大学理学部　小原政信
TEL (0824) 24-7442、FAX (0824) 24-1492
E-mail: mobara@sci.hiroshima-u.ac.jp

○第5回日本生化学会春季シンポジウム (5th CGGH Symposium 1998)
「幹細胞の発生と分化決定」*"Generation and Lineage Commitment of Stem Cells"*

会　期：1998年7月9日(木)、10日(金)
会　場：筑波大学大学会館（つくば市天王台）
オーガナイザー：帯刀益夫（東北大・加齢研）
山本雅之（筑波大・TARA セ）
主　催：日本生化学会・CGGH フォーラム
共　催：(財)国際協力医学研究振興財団
協　賛：日本分子生物学会、日本細胞生物学会
7月9日(木)：
13：00～16：00　Session 1
Determination of Neural Stem Cell
Ryoichiro Kageyama (Kyoto Univ.)
Tom Hazel (N. I. H., Bethesda)
Takahisa Furukawa (Harvard Med. Sch., Boston)
Fumio Matsuzaki (Natl. Neurosci. Res. Ctr.)
16：15～18：00　Poster Session
18：00～19：00　Meet the Speakers
19：00～21：00　懇親会（参加費：3,000円）
7月10日(金)：
9：30～12：30　Session 2
Generation, Self-renewal and Commitment of Hematopoietic Stem Cells
Elaine Dzierzak (Erasmus Univ., Rotterdam)
Isabelle Godin (CNRS, Nogent sur Marne)
Takahiko Hara (Univ. of Tokyo)
Ihor R. Lemischka (Princeton Univ., Princeton)
Masuo Obinata (Tohoku Univ.)
13：30～16：30　Session 3
Transcriptional Regulation in Lineage Commitment of Hematopoietic Stem Cells
Sergio Ottolenghi (Univ. of Milan)
George Stamatoyannopoulos
(Univ. of Washington, Seattle)
Masayuki Yamamoto (Univ. of Tsukuba)
Frank Grosveld (Erasmus Univ., Rotterdam)
Tariq Enver (Leukemia Res. Fund Ctr., London)
演題締切日：1998年6月7日(日)
一般演題としてポスター発表を行いますので、多数ご応募下さい。E-mail でも受付けます。
問合先：
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1
東北大学加齢医学研究所分子発生研究分野　帯刀益夫
TEL (022) 717-8483、FAX (022) 717-8488
E-mail: stem@idac.tohoku.ac.jp
ホームページ：
http://www.idac.tohoku.ac.jp/stem/Index.htm

○千里ライフサイエンスシンポジウム「感染症研究の現状と展望」

日　時：1998年7月3日(金) 10：00～17：00
会　場：千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール（豊中市新千里東町1-4-2）
主　催：(財)千里ライフサイエンス振興財団
協　賛：(株)千里ライフサイエンスセンター
コーディネータ：竹田美文（国立国際医療セ研）
プログラム：
1. はじめに　竹田美文
2. 腸管出血性大腸菌の病原性　本田武司（阪大・微研）
3. 赤痢菌の上皮細胞感染と細胞高次機能　笹川千尋（東大・医科研）
4. 細胞内寄生菌のエスケープ機構と宿主免疫応答　光山正雄（京大・院医）
5. 粘膜細胞間イントラネットを応用したワクチン　清野　宏（阪大・微研）
6. 腸管感染症の新しいワクチンの開発　山本達男（国立国際医療セ研）
7. ポリオウイルス感染を決定する生体機能　野本明男（東大・医科研）
8. センダイウイルス (HVJ) の遺伝子操作系の確立と展開　永井美之（東大・医科研）
9. プリオン病の分子病態　北本哲之（東北大・院医）
10. おわりに　竹田美文

参加費（講演要旨集含）：

会員(大学、官公庁、主催・協賛団体会員)	6,000円
非会員	8,000円
学　生	3,000円

定員：200名
参加申込方法：
①氏名、②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、TEL、FAX を明記の上、郵便または FAX で下記宛お申込み下さい。参加費は申込後に住友銀行千里中央支店普通預金 No. 128278財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込み下さい。なお振込みの際、振込者名の前に S8 とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付します。
申込先：
(財)千里ライフサイエンス振興財団　シンポジウム係
（担当：田中　晃）
〒565-0082 豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル8階
TEL (06) 873-2001、FAX (06) 873-2002

○第９回電顕サマースクール1998 「極微構造解明の新展開」

日本電子顕微鏡学会では形態研究の発展のため、初心者から中堅までの若手研究者・技術者を対象として、サマースクールを開講しています。今年も第一線の講師の方々が「極微構造解明の新展開」の基本から最先端技術まで、その手技を、実際の体験に基づき分かり易く、すぐに明日からでも応用できるように解説します。また、今回は実技講習をより充実させ、機器の取扱い、よりよい成果を得るこつ等を体験学習していただきます。３日間講師と講義や実技の場で、あるいは懇親会で、活発に意見交換をしていただくことは、明日への研究の活力を高めるのに役立つものと期待しています。今年も、日本電子顕微鏡学会の電子顕微鏡技術認定試験の問題とその解説をテキストに収録して、受験者の便宜を図っていますので、お誘合せの上、多数ご参加下さい。

実行委員長　猪口哲夫

会　期：1998年８月６日（木）～８日（土）

会　場：久留米大学御井学舎「御井メディアセンター」（久留米市御井町1635）

参加費：

日本電子顕微鏡学会会員30,000円（申込みと同時入会も会員扱い）、日本臨床電子顕微鏡学会（共催）会員30,000円、協賛学会会員35,000円、非会員40,000円、学生会員20,000円。参加費にはテキスト代が含まれます。テキストには1997年度日本電子顕微鏡学会技術認定試験問題とその解説も収録されています。

申込締切日：1998年７月25日（土）

申込方法：

申込用紙に所定の事項を記入の上、サマースクール事務局宛にお送り下さい。FAX送信も受付けます。申込受付後、振込用紙をお送りしますのでご入金下さい。入金を確認次第、受講票をお送りします。サマースクール当日、会場受付で受講票をご提示いただくとテキストと名札をお渡しします。ご都合により申込みの取消しをされる場合は送金手数料を差し引いてご返金しますが、７月26日（日）以降は返金に応じかねます。ただし、後日テキストはお届けします。

申込先：〒830-0011久留米市旭町67
久留米大学医学部解剖学第二講座内
「電顕サマースクール」事務局
TEL（0942）31-7541、FAX（0942）31-7555

８月６日（木）：

基調講演：電子顕微鏡にみる新技術開発
丸勢　進（名城大 理事・名誉会員）

生命科学系講演：

1.　電子顕微鏡で何が観えるか１
 1）透過電子顕微鏡で観る世界―ナノメーターの世界に初めてチャレンジする人のために―　藤田　守（中村学園大）
 2）SEMによる生物試料観察の基本　満嶋　明（鳥取大）
 3）SEMの過去、現在、未来　田中敬一（鳥取大 名誉教授）

2.　電子顕微鏡で何が観えるか２
 1）免疫組織化学の基本―ポスト・エンベディング法を中心に―　横田貞記（山梨医大）
 2）免疫組織化学による形質膜タンパク質の局在解析　藤本豊士（群馬大）
 3）胎仔の血管鋳型作成法と応用　近藤俊三（三菱化学）
 4）凍結超薄切片法および凍結包埋法　高野邦雄（長崎大）
 5）*In situ* hybridization法　小路武彦（長崎大）
 6）レクチン組織化学　村田長芳、津山新一郎（鹿児島大）

3.　ニューマイクロスコープの新しい展開１
 1）共焦点レーザー顕微鏡　石館文善（カールツァイス）
 2）光ピンセットによる細胞膜分子のナノメートル/ピコニュートン操作　楠見明弘（名大）

物質材料系講演：

1.　走査プローブ顕微鏡
 1）走査型フォース顕微鏡による有機材料の構造・物性の分子イメージング　梶山千里（九大）
 2）走査透過電子顕微鏡によるセラミックス材料の評価　金子賢治（科技団）

2.　FIBをめぐって
 1）集束イオンビームによる断面TEM試料作製　黒田光太郎（名大）
 2）Nearly damage-free cross-sectioningを目指して　志水隆一（阪大）
 3）FIBとSEMによる半導体デバイス評価　藪内康文（松下テクノリサーチ）
 4）GaN系材料の微細構造―FIBの応用―　桑野範之（九大）
 5）金属材料の微細構造解析―FIBの応用―　堀田善治（九大）

3.　トピックス１
 1）CZ-Si結晶中のグロウイン欠陥の観察　定光信介（住友シティックス）
 2）歯科用材料の微細組織　田中康弘（長崎大）

８月７日（金）：

基調講演：顕微鏡と私
山田英智（久留米大 名誉教授・名誉会員）

生命科学系講演：

1.　ニューマイクロスコープの新しい展開２
 1）医学・生物学領域における走査型プローブ顕微鏡の現状とその可能性　山科正平（北里大）
 2）走査プローブ顕微鏡と生物試料観察　牛木辰男（新潟大）
 3）多光子レーザー走査蛍光顕微鏡　長谷川茂（日本バイオラッドラボラトリーズ）
 4）２光子励起蛍光顕微鏡法の生物学への応用　佐甲靖志（阪大）

2.　フリーズレプリカ技法の発展
 1）フリーズレプリカ法による蛋白質分子構造の解析　片山栄作（東大）
 2）フラクチャー・フリップ法による細胞膜表面構造の観察　藤本　和（京大）
 3）フリーズレプリカ法の酵素細胞化学　瀧沢俊広（自治医大）

3.　新しい電顕
 4）エネルギーフィルタTEMの原理と生物の応用　二重作豊（北里大）
 5）TEMのPC制御による新しい展開　小林弘幸（日立製作所）

物質材料系講演：

1.　エネルギーフィルター電顕
 1）エネルギーフィルターTEMによる元素分布像観

察　　　　　　　　　　　木本浩司（日立研）

2) エネルギーフィルター電子顕微鏡による像観察　友清芳二（九大）

3) エネルギーフィルターTEMによる電子回折　松村　晶（九大）

4) EXELFSによる軽元素非晶質の短距離秩序　武藤俊介（名大）

2. トピックス2

1) Nd-Fe-B系磁石材料の極微構造　板倉　賢（九大）

2) 超親水性触媒薄膜の応用と分析評価　青島利裕（東陶機器）

3) 強誘電体セラミックスの微細構造観察　見島常雄（京セラ）

実技講習（午後）：

1. 凍結超薄切片作製装置、2. 走査型プローブ顕微鏡、3. オスミウムプラズマコーター、4. イメージング・プレート他画像処理法、5. プラズマイオン処理装置、6. マイクロウェーブ迅速試料装置、その他

8月8日（土）：

実技指導（午前）：

1. 生命科学系実習

1) 共焦点レーザー顕微鏡、2) 凍結超薄切片作製、3) 透過型電子顕微鏡、4) 走査型電子顕微鏡

2. 物質材料系実習：

1) ナノプローブ電子分光型分析電顕、2) FIB、3) 画像処理

○第4回国際神経内分泌学会議

会　期：1998年10月11日（日）～16日（金）

会　場：北九州国際会議場（JR小倉駅より徒歩5分）

国際神経内分泌学会会長：

Dionysia Theodosis (Bordeaux, France)

組織委員長：山下　博（産業医大・1生理）

日程（予定）：

10月11日（日）

午後　登録開始、Opening Ceremony, Welcome Party

10月12日（月）

午前　Geoffrey Harris Memorial Lecture, Symposium 1/Round Table 1

午後　Mini-Symposia, Symposium 2/Round Table 2, Poster, Plenary Lecture 1

10月13日（火）

午前　Plenary Lecture 2, Workshop

午後　Symposium 3/Round Table 3, Poster, Plenary Lecture 3

10月14日（水）

午前　Plenary Lecture 4, Symposium 4/Round Table 4

午後　Symposium 5/Round Table 5, Poster, Plenary Lecture 5, Banquet

10月15日（木）

午前　Plenary Lecture 6, Symposium 6/Round Table 6

午後　Symposium 7/Round Table 7, Poster, Closing Remarks

10月16日（金）　Excursion

国内外の招待講演者（予定）：

Geoffrey Harris Memorial Lecture;

M. Palkovits (Hungary),

Plenary Lectures;

P. M. Wise (USA), I. C. A. F. Robinson (UK), M. Rosenfeld (USA), P. E. Sawchenko (USA), H. Matsuo (Japan), P. R. Bouchard (France)

Symposia;

S. P. Kalra (USA), Y. Ogawa (Japan), J. L. Cameron (USA), S. R. Ojeda (USA), D. Poulain (France), L. M. Garcia-Segura (Spain), B. Marchetti (Italy), W. W. Vale (USA), E. Senba (Japan), K. E. Mayo (USA), E. Mohr (Germany), M. S. Harbuz (UK), J. Elmquist (USA), K. Itoi (Japan), F. J. H. Tilders (Holland), Y. Takahashi (Japan), P.-M. G. Bouloux (UK), Y. Oiso (Japan), A. Kalsbeek (Netherlands), S. M. Reppert (USA), K. Honma (Japan), A. Matsumoto (Japan), M. Joels (Netherlands), M. M. H. Schumacher (France)

Workshop;

B. A. Demeneix (France), R. M. Wightman (USA), A. Beaudet (Canada)

Mini-Symposia;

A. Arimura (USA), L. Martini (Italy), G. Ju (China), P. Gluckman (New Zealand), R. T. Johnston (Singapore), I. Clarke (Australia)

Round Table Discussion;

J. F. Morris (UK), B. J. Bicknell (UK), J. W. McCabe (USA), R. Buijs (Netherlands), E. Tribollet (Switzerland), Y. Ueta (Japan), G. I. Hatton (USA), G. Leng (UK), Q. Pittman (Canada), C. Bourque (Canada), I. Shibuya (Japan), K. Inenaga (Japan), P. Sharp (UK), S. Hayashi (Japan), M. Suzuki (Japan), M. Nishihara (Japan), H. Kaba (Japan), N. Murakami (Japan), M. Satoh (Japan), J. Kamegai (Japan), C. Dieguez (Spain), M. L. Hartman (USA), E. Terasawa (USA), F. Kimura (Japan), A. Caraty (France), S. Smith (USA), S. R. Rawlings (Switzerland), S. J. Winters (USA), Y. Murakami (Japan), K. Tanaka (Japan), K. Kondo (Japan), T. Imaki (Japan), Y. Iwasaki (Japan), J. A. Majzoub (USA).

サテライトシンポジウム：

"Control Mechanisms of Stress and Emotion in Occupational and Environmental Health: Neuroendocrine Based Studies"（1998年10月8～10日、北九州）

オーガナイザーおよび問合先：

第18回産業医科大学国際シンポジウム事務局

TEL(093) 603-0815、FAX(093) 603-0731

E-mail: isuoeh@med.uoeh-u.ac.jp

"Topics in GH and Related Peptides (tentative)"（1998年10月9日、神戸）

オーガナイザーおよび問合先：

神戸大学医学部第三内科　千原和夫

TEL (078) 341-7451 (Ext. 5540)、

FAX (078) 361-7259

E-mail: chiharak@kosmic.med.kobe-u.ac.jp

"Steroids in the brain from transcription factors to behavior"（1998年10月17日、京都）

オーガナイザーおよび問合先：

京都府立医科大学第一解剖　河田光博

TEL (075) 251-5300、FAX (075) 251-5306

E-mail: mkawata@neub.basicl.kpu-m.ac.jp
"Seoul Satellite Symposium on GnRH and Sex Steroids"（1998年10月17～18日、ソウル）
Organizer: Park Ki Hyun, Department of Obstetrics & Gynecology, School of Medicine, Yonsei University
Tel: +82-2-361-5498、Fax: +82-2-313-8357
E-mail: kh8730@yumc.yonsei.ac.kr
演題締切日：1998年6月15日（月）必着
応募用紙：2nd Circular のアブストラクト用紙
送り先：
第4回国際神経内分泌学会議事務局
㈶近畿地方発明センター内　㈱コングレ
〒606-8305 京都市左京区吉田河原町14
TEL（075）752-0888、FAX（075）762-2304
E-mail: neuroe@congre.co.jp
ホームページ（3月以降開設予定）：
http://www.congre.co.jp/4icn
問合先：
第4回国際神経内分泌学会議組織委員長
会長　山下　博（産業医科大学第一生理学）
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ケ丘1-1
TEL（093）691-7420、FAX（093）692-1711
E-mail: yama@med.uoeh-u.ac.jp

○第2回国際幹細胞シンポジウム

会　期：1998年10月22日（木）～23日（金）
会　場：東京大学医科学研究所　講堂
主　催：東京大学医科研 COE シンポジウム
共　催：医科学研究所幹細胞シグナル分子制御研究部
文部省重点領域研究「造血システム」
科技庁科学技術振興調整費「体細胞改変」
協　賛：アムジェン株式会社

1998年10月22日（木）：

SESSION 1 Role of Stem Cells in Tissue Formation
Chairperson Ken-ichi Arai (IMSUT)
9：05～9：35　1) Shin-ichi Nishikawa (Kyoto Univ.)
9：35～10：05　2) Makoto Asashima (Univ. of Tokyo)

SESSION 2 Fetal Hematopoietic Stem Cells
Chairperson Thomas R. Ulich (Amgen)
10：20～11：00　3) Gordon Keller (Natl. Jewish Med. and Res. Ctr., USA)
11：00～11：40　4) Mervin C. Yoder (Indiana Univ., Sch. of Med., USA)
14：00～14：40　5) Elain Dzierzak (Erasmus Univ., Netherlands)
14：40～15：10　6) Atsushi Miyajima (Univ. of Tokyo)

SESSION 3 Neural Stem Cells
Chairperson Takashi Yokota (IMSUT)
15：25～16：05　7) Ronald McKay (Natl. Inst. of Neurol. Disord. and Stroke, USA)
16：05～16：45　8) Samuel Weiss (Univ. of Calgary, Canada)

1998年10月23日（金）

SESSION 1 Hematopiesis
Chairperson Masaru Taniguchi (Chiba Univ.)
9：00～9：40　9) Yi Zhou (Children's Hosp., Boston, USA)
9：40～10：10　10) Toshio Suda (Kumamoto Univ.)
10：10～10：40　11) Shigetaka Asano (IMSUT)

SESSION 2 Purification and Expansion of Stem Cells
Chairperson Yukihiko Kitamura (Osaka Univ.)
10：55～11：25　12) Hiromitsu Nakauchi (Univ. of Tsukuba)
11：25～11：55　13) Tatsutoshi Nakahata (IMSUT)
11：55～12：25　14) Toshio Heike (IMSUT)

SESSION 3 Signal Transduction of Stem Cells
Chairperson Yoji Ikawa (Tokyo Med. and Dent. Univ.)
14：30～15：10　15) Harinder Singh (Univ. of Chicago, USA)
15：10～15：50　16) James R. Downing (St. Jude Children's Res. Hosp., USA)
15：50～16：30　17) Tak W. Mak (Amgen Res. Inst., Canada)

ポスター発表申込締切日：1998年9月4日（金）
シンポジウムの期間中、ポスターセッションを行います。演題を募集しますので、希望者はアブストラクトを事務局へお送り下さい。
シンポジウム参加規定：
シンポジウム参加は無料。事前登録は不要。
連絡先：
〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1
東京大学医科学研究所
幹細胞シグナル分子制御研究部　横田　崇
TEL +81-3-5449-5735、FAX +81-3-5449-5450
E-mail: tyokota@ims.u-tokyo.ac.jp
URL http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/stem/sympo2-sympo.html

○第8回アンチセンスシンポジウム

会　期：1998年11月18日（水）～19日（木）
会　場：幕張メッセ国際会議場（千葉市美浜区中瀬2-1）
主　催：アンチセンス DNA/RNA 研究会
共　催：日本分子生物学会 他
発表申込締切日：1998年7月31日（金）
予稿原稿締切日：1998年10月3日（土）
参加登録予約申込締切日：1998年11月2日（月）
発表内容：
アンチセンス分子による治療法、アンチセンス分子の設計、DDS 関係の開発（遺伝子の細胞への導入）、発現系の構築、その他アンチセンスに関する広範囲のテーマを討論する。
特別講演、一般講演：
口頭発表（講演、討論を含め15～20分）、ポスター

発表。討論を目的としておりますので既発表の内容を含んでも差し支えありません。

発表申込方法：

B5判大の用紙に(1)演題、所属（和文と英文）(2)氏名 (3)連絡先（住所、TEL、FAX、E-mail）(4)200字程度の要旨 (5)希望の発表形式を明記し、下記の連絡先まで、郵便でお申込み下さい。なお、発表形式、プログラム編成等については世話人会にご一任下さい。

予稿原稿：詳細は申込者に連絡します。

参加登録費（要旨集を含む）：

事前登録（一般）5,000円、（学生）2,500円

当日登録（一般）6,000円、（学生）3,500円

懇親会：

（一般）5,000円、（学生）3,000円。11月18日（水）18：00より幕張メッセ国際会議場内にて開催します。原則として予約制とします。参加登録時にお申込み下さい。

参加登録予約申込方法：

氏名、所属、連絡先（住所、TEL、FAX）を明記の上、郵便またはFAXにて下記宛へお申込み下さい。参加費は申込みと同時に、東京三菱銀行、船橋支店（普通預金0904344 第8回アンチセンスシンポジウム）にお振込み下さい。

申込先：

〒275-0016 習志野市津田沼2-17-1
千葉工業大学・工業化学科内
第8回アンチセンスシンポジウム事務局
TEL (0474) 78-0407 （高久）、0425 （河合）、0422 （高井）、FAX (0474) 71-8764
E-mail: hiroshi@miida.cs.it-chiba.ac.jp
takai@cc.it-chiba.ac.jp (Kazuyuki Takai)
gkawai@ic.it-chiba.ac.jp (Gota Kawai)

○理化学研究所脳科学総合研究センター

チームリーダーの公募のお知らせ

その下に設置した先端技術開発センターにおいて、下記の要領で2分野のチームリーダー各1名を公募します。

技術開発分野：

1. 画像解析高度化技術開発、光計測技術開発（装置、マーカー他）などの新計測技術開発に関する研究
2. 培養系細胞開発および神経組織・細胞移植技術開発研究など生物学的新技術開発に関する研究

研究チーム：

チームは研究員、テクニカルスタッフを含めて5～10名で構成され、雇用の任期は5年とし、評価の結果により再任が可能です。その間の研究費は保証されます。チームは1998年内に発足予定です。

先端技術開発センター（ATDC）の概要：

科学と技術は相互に作用しながら近代文明の発達を支えてきており、多くの科学上の発見は新技術の開発によって導かれてきました。脳科学研究の分野においても、新しい非侵襲計測技術・画像化技術や実験動物技術の開発が、最先端の研究を牽引してきました。今後ともこうした技術の開が脳科学の進歩の源泉となるものと見込まれます。このようなことからATDCの研究チームは、脳科学研究の基礎となる新技術創出に関わる研究開発を主目的とし、併せて脳科学総合研究センター全体の研究基盤の高度化、さらには産業界への技術移転に貢献することが期待されます。

ATDCには現在2チームが設置されています。一つは神経構築技術開発チームで、免疫組織化学的な新技術開発に取り組んでいます。他の一つは行動遺伝学技術開発チームで、遺伝子操作技術による新しいモデル動物の作出を目指しております。

応募方法：次の1）～4）の書類を揃えて後記の連絡先に送付して下さい。

1） 履歴書
2） 業績リスト（発表論文リスト等）
3） 研究上の興味および当研究センターならびにATDCにおける研究計画の概要（2,000字以内）
4） 推薦者リスト3名（氏名、連絡先）

応募締切日：1998年7月31日（金）

送付・問合先：

〒351-0198 和光市広沢2-1
理化学研究所脳科学総合研究センター
サーチ委員会（3）
FAX (048) 467-9692
E-mail: search3@brain.riken.go.jp

テクニカルスタッフ募集

There are immediate openings for two technical staff positions in dynamic research team (Team Leader: Thomas Knopfel) at the RIKEN Brain Science Institute (http://www.riken.go.jp/lab-www/braincenter) close to Tokyo.

研究分野：

The new laboratory studies information processing in neuronal networks of cerebellar/cerebral cortex using an innovative optical imaging technology based on environmental sensitive fluorescent proteins.

募集対象：

Applicants should have experience with basic molecular biological techniques (PCR, cDNA cloning, mammalian cell culture) or *in vitro* electrophysiology (preparation of brain slices, intracellular recordings) and should be motivated to participate in a dynamic and multidisciplinary research program.

Good knowledge of english language is essential.

募集人員：2名

契約期間：決定次第契約（当初年度末まで・更新あり）

応募方法：履歴書（英文）、業績リスト（発表論文リストなど・英文）を郵送

応募締切日：1998年6月30日（火）

選考方法：書類選考の上面接により決定

書類送付先：

〒351-0198 和光市広沢2-1
理化学研究所脳科学総合研究センター
神経回路ダイナミクス研究チーム/Thomas Knopfel

問合先：

神経回路ダイナミクス 高田
TEL (048) 462-1111 (Ext. 6162)、
FAX (048) 467-9643
E-mail: knopfel@brain.riken.go.jp.

◆Genes to Cells 購読手続きについて

日本分子生物学会会員に対する会員特価での Genes to Cells の購読申込先は、1998年（volume 3）より㈶日本学会事務センターに全面的に移管されています。購読申込は、㈶日本学会事務センターより学会費の振込用紙と同時に送付される、Genes to Cells の申込・振込用紙に必要事項を記入し、㈶日本学会事務センター宛にお送り下さい。購読代金は日本円での受付けとなります（1998年は12号で8,500円)。また購読は1年単位ですので、1年毎の更新をお願いします。購読のご案内は秋期に一度さしあげます。どうか遺漏なく申し込んで下さるようお願い申し上げます。なお、雑誌は出版元である英国 Blackwell Science 社から直送されますので、申込の際には雑誌の送り先を英文にて書き添えて下さるようお願いします。購読に関する質問、トラブル等も㈶日本学会事務センターにて承ります。

寄贈の取り扱いについて

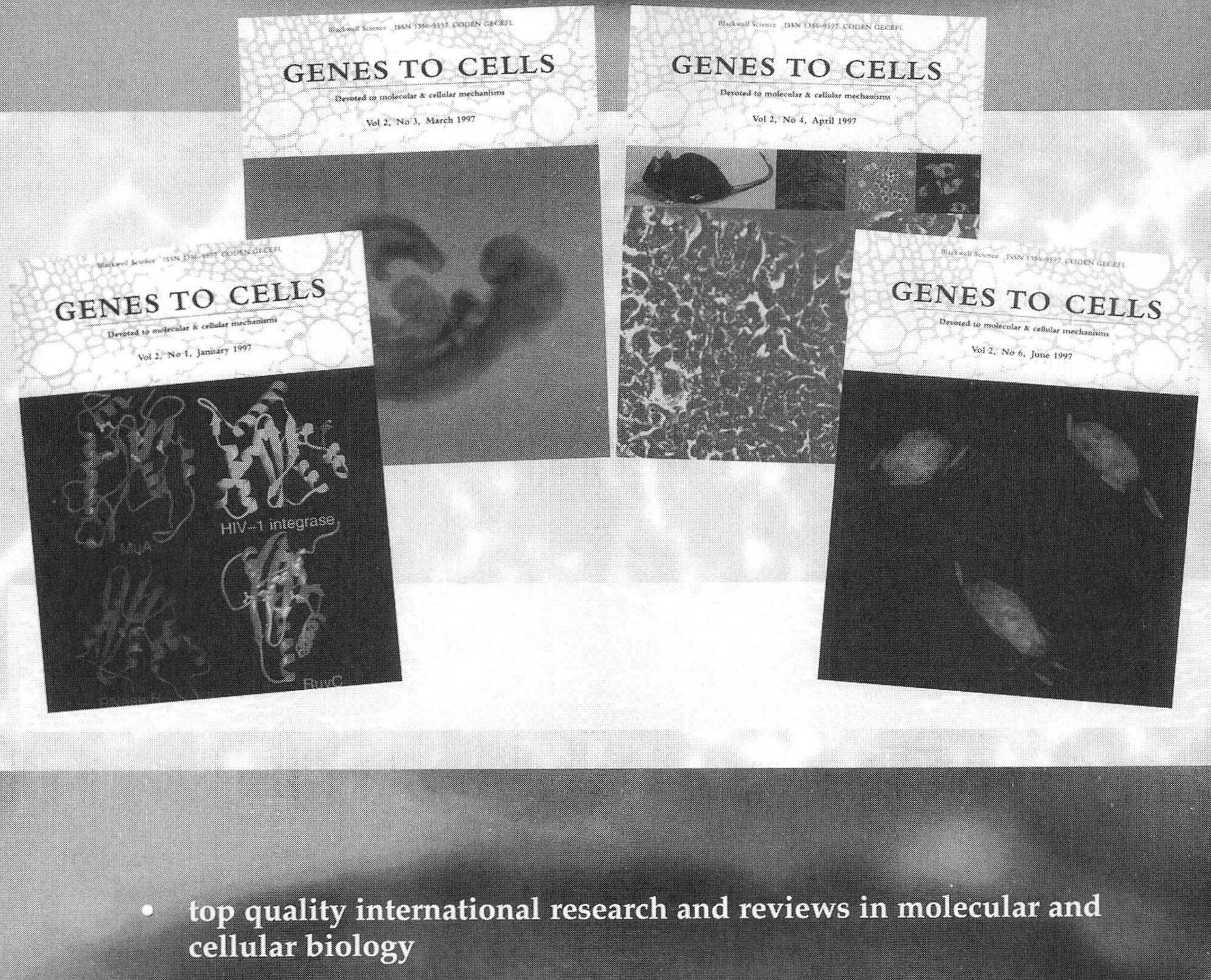
Genes to Cells の発刊以来、会員が経費（会員特価と同額）を負担して、指定した国内外の知人、研究室に寄贈する制度をもうけています。この制度は海外に Genes to Cells の知名度を高めるのに大きく貢献してきました。編集者ならびに学会は、これまで寄贈に協力して下さった方々に謝意を表すとともに、今暫くこの制度を保ちたいと考えています。寄贈には「寄贈専用申込書」を使用していただくことになりますが、この申込書は会費の振込用紙には同封されませんので、寄贈して下さる方は誠にお手数ですが、㈶日本学会事務センターに寄贈のための用紙をご請求下さるようにお願い申し上げます。事務処理の都合上とはいえ、ご寄贈下さる皆様にかえってお手数をおかけしますことをお詫び申し上げます。どうか寄贈のもつ大きな意義をご理解下さり、今後ともこの制度の維持拡大にご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

申込の窓口

㈶日本学会事務センター事務部「Genes to Cell」係
〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9
TEL（03）5814-5811、FAX（03）5814-5822

GENES TO CELLS

Devoted to molecular & cellular mechanisms



- **top quality international research and reviews in molecular and cellular biology**
- **focusing on the basic molecular mechanisms underlying biological processes**
- **no page charges and 25 free offprints for authors**
- **GENES TO CELLS is covered by *Medline* and *Index Medicus***
- **personal subscriptions from just £70.00 a year**

日本分子生物学会　会報
年 3 回刊行

第60号（1998年 5 月）
発　行：日本分子生物学会 庶務幹事
製　作：学会センター関西
㈶日本学会事務センター　大阪事務所